景観分析のための郵便資料とその可能性

―日本・韓国における非文字資料としての景観切手を中心に―

八久保　厚　志

Ⅰ　はじめに

景観分析に対して、絵画、絵地図、写真、映像などの非文字資料からその構造、形成・変化のメカニズム、含意などを分析しようとするプロジェクトが本学において、21世紀拠点形成事業（COEプログラム；神奈川大学21世紀COEプログラム人類文化研究のための非文字資料の体系化）の一課題として選定を受け推進されている。その中で筆者らのグループは、渋澤敬三らの残した映像資料群（渋澤コレクション）のなかから写真資料（渋澤フィルム）をもとに景観分析を進めている（八久保2003）[1]。その過程で各国が発行してきた郵便資料群（郵便切手、印紙、絵入り葉書、風景スタンプ等の消印類など）が基準資料（渋澤フィルム）を時間的に補完する景観資料としての可能性を感じた（八久保・須山2004[2]　浜田2005[3]）。そこで本稿では日本（旧琉球民政府含む）、韓国の郵政が発行してきた郵便資料群、とりわけ郵便切手を直接的な対象とし、その定義、概要、含意などについて検討を加える。その目的は、渋沢フルム分析に関する手法開発と、景観分析としての郵便資料の資料としての有用性と可能性を示すことである。

Ⅱ　地理学における郵便資料の利用

これまで地理学において、早くより郵便資料の利用が図られてきたのは文化地理学、政治地理学、地理教育の分野である。以下簡単に整理しておく。文化地理学で郵便切手の活用に積極的なのは江波戸昭（1987他）[4] である。江波戸によれば、「ここで切手を素材としてとりあげたのは、最近、各国―特に第三世界を中心に、自国の文化の一つの象徴として民俗楽器の美しい切手が多く発行されるようになったこと。しかも、近頃になってようやく日本でも音楽教育や鑑賞の対象として民俗音楽ないし民俗楽器に関心が向けられるようになってきたのだが、それらについての文献やレコードの多くは欧米諸国で出版されたものであって、非欧米地域での独自の出版物は数が少なく、かつ入手が難しい。その上、欧米ものの記述にはあいかわらずの独断と偏見が含まれていたり、曖昧さや誤りが散見されたりする。ところが、各国の公的機関から発行（印刷はしばしば他国に発注するものの）されている切手にとりあげられ、描かれている楽器なら、まずその国の代表的な楽器だろうし、形態や奏法も正確だろう。さらに、名称が記入されていれば、部族によるちがいや表記法のずれはあるにせよ、ともかく、それなりに信憑性が高いだろうと考えらたからである。（アンダーライン筆者）」（江波戸昭 1984 年；『切手にみる世界の民俗楽器』p3）との指摘がある。すなわち、地理的情報の乏しい地域での民族の情報は、旧宗主国や、欧米諸国の偏見や独断といったバイアスがかかっており、その量も少ない。一方、公的な切手はモチーフの内容や表記法などにその地域の情報が反映されており、その信憑性は極めて高いと考えられるのである。まさにこれらの点が世界の民族の空間的存在形態を明らかにする民族地理学の基礎資料として、

切手が有効的である理由である。一方、政治地理学上の切手の有効性は、多方面にわたる。斉藤毅は、近・現代における諸国家の盛衰を領域認識から解説している。とくにデッドカントリーといわれるかつて歴史的に存在した諸国家や地域の政治地理学的な役割や民族、文化、経済等の地理的情報を当該諸国家や地域が発行した切手で理解し、説明を加える手法を提起してきた（斉藤　1997）[5]。すでに歴史上消滅した国家・地域の詳細は、一部研究者のみに保存され、研究される運命だが、現下の世界地理を考える場合、また、現下の紛争地域の地政学的位置づけを説明する場合において、簡便にその情報を供してくれる切手は極めて貴重な資料となり得るのである。しかもほとんどが図案化されたものや写真でビジュアル性の強いものである。斉藤は一歩進んで、地理教育の現場での切手の利用を行っている。国家、国民など、ナショナルステートの形成にとって、自国発行の切手が大きな役割を果たすことは以下に述べるが、反証としてまた例証としてデッドカントリー発行の切手による世界地理の教示は地理教育での切手の有効性を示していると考えられる。

以上のように、地理学において、その研究・教育上にはたしている非文字資料としての切手の有効性は明らかである。しかし、私見であるが、景観地理学上の利用はこれまで少なかったといえる。それは、近代以降、図案化された景観や景観写真が早くから資料として一般化しており、とりたてて切手に注目しなくても一定の情報が得られてきたからであろう。また、写真はそれだけで真実を表すものとの誤解が蔓延してきたからともいえよう。それが絵画資料と同様に写真には構成や思想、社会的環境、個人的嗜好性など、多様な側面を含意していることが当然のように語られるようになってはじめて、景観切手にもその含意や有効性を検討する必要性が生じてきたといえる。この点で、景観地理学者は資料としての郵便資料とりわけ景観切手の利用に無頓着であった。したがって、次に

日本を中心に琉球郵便、韓国郵政の景観切手を事例にその含意と非文字資料としての有効性を検討する。

Ⅲ　郵便史料と景観切手

最初に検討対象とする郵便資料、とりわけ「郵便切手」について整理しておく。周知のように郵便切手（以下切手と呼ぶ）は、産業革命期の英国において、桎梏となりつつあった情報伝達手段としての郵便制度の問題点の克復から企画された（オットーホルヌンク　1970）[6]。料金の前納制、全国均一料金、通信の国家管理・保証などがその主要な内容であった。経済改革の側面が多々あった。当初、ローランドヒルを中心とした担当者は、専用封筒（マルレディ封筒）を主とし、証紙としての紙片（stamp）は従のものとされた。しかし、その簡便性のために紙片貼付方式であるstamp-mailが主流となっていった。証紙のモチーフにはビクトリア女王の横顔のシルエットが採用され、現代に至るまで、英国切手は時々の君主をその印面のいずれかに配置している。また、その後創設されたUPU（万国郵便連合）の申し合わせ事項である国名の英文表記を拒否し、近代郵便制度の発祥の地としての伝統性を誇示している。ともあれ、この便利な情報伝達の制度は世界全体に及び、日本も明治維新後早い段階で紙片貼付方式の近代郵便制度を創設している。その後、近代郵便制度は、欧米諸国の植民地に限らず、中国や朝鮮などの未整備地域でも、その地の主権を犯して列強諸国の在外局として長らく存在し、不平等条約の象徴でもあった。日本においても完全に外国局（英国、フランス、米国など）が撤収し、完全に国内郵便と外国郵便がその主権下におかれたのは1877（明治10）年であった。一方、朝鮮半島や中国への進出には、在中国郵便局、在朝鮮郵便局を設置し、欧州の例にならっ

た（H. A. Ramsden. 1910）[7]。

この流れのなかで、切手は料金前納制の証紙としての機能の他に主権の誇示、国威発揚、国家・国民支配の為政者の統治・専伝手段としてとしての機能が付加されていった。そのことは新規発行される切手を通常料金前納切手と、記念特殊切手に分けることになった。例えば、英国は長らく記念切手の発行というアイデアには頓着せず、南米ペルーにその最初の切手発行国の座を奪われることになる。活発に植民地や本国の記念事業や特殊なシリーズを発行するようになったのは20世紀に入ってからである。この時期、大英帝国の植民地は「日の沈むことのない」領域を持っていた。ジョージ5世はこれら地域の地誌をわかりやすい形、つまり風景や自然・人文景観を中心としたシリーズ切手で示すことを企画した。このシリーズは、ほぼ全世界の地誌を網羅し、景観を国家意志で国民や全世界の人々へ紹介することになった。現在でも、19世紀末葉から20世紀初頭に掛けての世界地誌を知る上での資料性は高い。その後、郵便切手は国民国家形成上の1アイテムとして機能させられることになる。列強各国は自らの領土的な野心を、その版図の国際的な認知を得る前に地図切手や進出地の風景切手を発行することでその既成事実化を図り、かつ自国民へは新領土の地理的な知識を提供するのである。日本も同様に、中国東北部の蒙疆・満州、後に南洋、フィリピン、インドネシア（蘭領）、ビルマ地域などの風景や産業、民族文化をモチーフとした郵便切手を現地で発行していった。それらの郵便切手は、親書や小包に貼付され、日本本土に送られ、国民へ当該地域の地誌的知識を拡げることに貢献していったのである。一方で抵抗する民族勢力もその影響域に独自の郵便制度を構築し、同様に風景や産業、民族文化的なモチーフの他、政治的なスローガンをほどこした郵便切手（いわゆるプロパガンダ切手）を活発に発行していったのである。したがって、当時敵対

していた勢力や国家間の簡便な情報獲得手段として（その真贋の確認など一定の注意を払って）郵便切手は利用できたのである。現在、フィラテリスト（郵便研究者）の旺盛かつ絶大な情熱によって当時の実情が明らかになりつつあり、フィラテリストの社会的な地位が認知されることと伴って、郵便資料の各方面での有効性が認識されている。とくに、英国の王立郵趣協会や各国の郵政博物館の活動は活発になっており、非文字資料として郵便切手やその他郵便資料が価値のある資料と認識されつつある。ただ、日本では重層的で価値の高いマテリアルが蓄積されているにもかかわらず、その価値への注目は低い。それは、昨今の郵政システムの在り方について、その効率性や利便性議論のみが注目され、その社会的存在の意味することに注意が全く払われていないことによると思われる。この点で、近年、韓国や中国のとらえ方は注目に値する。筆者は、2004年8月に新装なった韓国郵政博物館を訪れる機会を得たが、郵政職員の研修所をかねる壮大な敷地内に現代的な展示システムを持った博物館が建設されており、その熱意が伝わるものとなっている。ともあれ、このような事情を勘案しても、郵便資料群は筆者らの研究テーマである景観分析や、空間編成上の時間軸としての資料不足を埋める上で、国家というフィルターを通したとしても十分活用に値する非文字資料と考えられる理由である。現在、世界中の郵便切手類を記録しているものとして、Scotte（アメリカ）[8]、MIHEL（ドイツ）[9] の世界切手カタログがあり、最新版では、ほとんどのアイテムがカラー化されている。その他にもギボンス（イギリス）、イベール（フランス）のカタログがある。

以下、郵便資料について、風景や景観を直接的にモチーフとした郵便切手（主に国立公園、国定公園など、以下景観切手と呼ぶ）のうち、日本の国立・国定公園切手、観光地百選切手、復帰前の琉球郵便時代に発行された政府公園切手、文化財週間切手、海洋シリーズ切手および韓国

の公園・観光地切手を事例に、郵便資料とりわけ景観切手の特徴と非文字資料としての可能性について検討する。

Ⅳ　日本・韓国の景観切手の概要

1. 日本の景観切手

日本の国立・国定公園切手の概略は以下のとおりである（表1)。国立公園切手は、1936（昭和11）年以降、第一次シリーズとして富士箱根、日光、大山・瀬戸内、阿蘇、大雪山、霧島、大屯・新高阿里山（台湾)、次高タロコ（台湾）の公園が戦前期に発行された。続いて戦後、吉野熊野、富士箱根（第二次)、阿寒、十和田、中部山岳、磐梯朝日、知床洞爺、伊勢志摩、雲仙、上信越高原、秩父多摩、陸中海岸、西海国立公園の順に1956（昭和31）年に完結した。その後、1962（昭和37）年より第二次シリーズとして、富士箱根伊豆、日光、雲仙天草、白山、磐梯朝日、瀬戸内海、大雪山、伊勢志摩、大山隠岐、上信越高原、阿蘇、知床、南アルプス、秩父多摩、十和田八幡平、霧島屋久、阿寒、陸中海岸、吉野熊野、西海、支笏洞爺、中部山岳、小笠原、西表公園が発行された。1974（昭和49）年一応の完結をみる。この時点で、国定公園から国立公園へ格上げされたいくつかの公園については発行されなかった。国立公園の新規指定や分離独立等指定地域の変更などで新たな公園切手の発行が地元から要請されたことによる。全体として一部例外を除けば、公園内の景観の写真を原資料として、グラビア印刷されたものであり、一部編集上多少の修正などが加えられたことを除けば、原景観を忠実に表している。一方、国定公園切手は、1958（昭和33）年、時の郵政大臣田中角栄の選挙地盤を中心とした佐渡弥彦国立公園が最初である。以下1973（昭和48）年までに、秋吉台、耶馬日田英彦山、三河湾、網走、

表1　公園切手における景観

	公園名	採りあげられた景観・観光地など
第一次国立公園	富士箱根	富士山、芦ノ湖、三つ峠、三島
	日光	中禅寺湖　男体山　華厳の滝　神橋　菖蒲平　燧(ひうち)岳
	大山瀬戸内	大山　屋島　阿伏兎観音　鞆の浦
	阿蘇	久住山　中岳　阿蘇中央火口丘群
	大雪山	北鎮山　旭岳　層雲峡　十勝連山
	霧島	新焼岳火口　韓国岳　高千穂峰　霧島神宮参道　六観音池と甑岳
	大屯新阿里山	大屯山　新高山（玉山）観音山凌雲禅寺　新高山山頂
	次高タロコ	清水断崖　タロコ峡　次高山　立霧渓
	吉野熊野	獅子岩　大峰山　瀞八丁　橋杭岩
	富士箱根	三つ峠　河口湖　七面山　山中湖
	阿寒	阿寒湖　雄阿寒岳　屈斜路湖　阿寒富士　摩周湖
	十和田	奥入瀬渓谷　十和田湖　観湖台　八甲田連峰
	中部山岳	槍ヶ岳　黒部渓谷　白馬岳　乗鞍岳
	磐梯朝日	吾妻小富士　大朝日岳　磐梯山　月山
	支笏洞爺	支笏湖　羊蹄山
	伊勢志摩	二見浦　波切海岸
	雲仙	雲仙主峰　千々石海岸
	上信越高原	浅間山　谷川岳
	秩父多摩	奥多摩渓谷　秩父連峰
	陸中海岸	北山崎　浄土ヶ浜
	西海	大瀬崎　九十九島
第二次国立公園	富士箱根伊豆	芦ノ湖　石廊崎　三つ峠　大瀬崎
	日光	尾瀬ヶ原　至仏山　那須茶臼岳　中禅寺湖　八町出島　男体山　潜竜渓
	雲仙天草	普賢岳　天草　雲仙　松島
	白山	翠ガ池　白山連峰
	磐梯朝日	以東岳　檜原湖　磐梯山
	瀬戸内海	鷲羽山　鳴門の渦潮
	大雪山	然別湖　黒岳
	伊勢志摩	宇治橋　鳥羽海岸
	大山隠岐	赤松の池　大山　隠岐浄土ヶ浦
	上信越高原	清津狭　野尻湖　妙高山
	阿蘇	中岳　阿蘇五岳
	知床	斜里海岸　硫黄山　羅臼湖　羅臼岳
	南アルプス	北岳　甲斐駒ヶ岳　赤石岳　聖岳　東岳
	秩父多摩	雲取山　秩父湖
	十和田八幡平	岩手山　十和田湖

	霧島屋久	高千穂峰　屋久島本富岳
	阿寒	雄阿寒岳　硫黄山
	陸中海岸	北山崎海岸　碁石海岸
	吉野熊野	吉野山　那智の滝
	西海	五島若松瀬戸　九十九島
	支笏洞爺	洞爺湖　羊蹄山　昭和新山
	中部山岳	穂高岳　立山
	小笠原	父島海岸　南島サンゴ礁
	西表	マリュウドの滝　海中の景観
国定公園	佐渡弥彦	外海府海岸と佐渡おけさ　弥彦山と越後平野
	秋吉台	カルスト高原　秋芳洞
	耶馬日田英彦山	「青の洞門」　三隅川と鵜飼
	三河湾	竹島
	網走	濤沸湖岸の原生花園
	足摺	足摺岬灯台と巡礼
	南房総	野崎灯台と海女
	琵琶湖	琵琶湖と比叡の山並
	山陰海岸	鳥取砂丘と因幡の傘踊り
	大沼	大沼　駒ヶ岳
	北長門	青海島
	錦江湾	桜島
	金剛生駒	金剛山
	水郷	水郷　船と水仙
	石鎚	石鎚山
	玄海	芥屋の大門
	伊豆七島	八丈島とフェニックス
	若狭湾	高浜海岸
	日南海岸	堀切峠　リュウゼツラン
	ニセコ積丹小樽海岸	ニセコアンヌプリ
	蔵王	蔵王の火口湖
	室戸阿南海岸	室戸岬　阿南海岸千羽海崖
	祖母傾	祖母山　高千穂峡
	八ヶ岳中信	赤岳　蓼科山
	利尻礼文	利尻山
	飛騨木曾川	木曾川とライン下り　犬山城と木曾川
	越前加賀海岸	呼鳥門
	鳥海	飛島と鳥海山
	高野龍神	高野山　護摩壇山とシャクナゲ

下北半島	仏ヶ浦
氷ノ山後山那岐山	原不動滝　那岐山
壱岐対馬	浅茅湾　対州馬と豆酘娘
能登半島	木の浦海岸と御神事太鼓　氷見海岸　立山連峰
妙義荒船佐久高原	妙義山　荒船山
比婆道後帝釈	同道山　比婆連峰　帝釈峡
栗駒	栗駒山　コブシの花　木地山こけし　鳴子峡と鳴子こけし
剣山	剣山　大歩危
明治の森	高尾山　箕面の滝
鈴鹿	鎌が岳　羽黒山
西中国山地	三段の滝　深入山
天竜奥三河	天竜峡　鳳来寺山

資料）日本切手専門カタログ 2006。

足摺、奥房総、琵琶湖、山陰海岸、大沼、北長門海岸、錦江湾、金剛生駒、水郷、石鎚、玄海、伊豆七島、若狭湾、日南海岸、ニセコ積丹小樽海岸、蔵王、室戸阿南海岸、祖母傾山、八ヶ岳中信高原、利尻礼文、飛騨木曾川、越前加賀海岸、鳥海、高野龍神、下北半島、氷ノ山・後山・那岐山、壱岐対馬、能登半島、妙義山荒船佐久高原、比婆道後帝釈、栗駒、剣山、明治の森、鈴鹿、西中国山地、天竜奥三河の順に発行された。シリーズとしての特徴は、景観写真や現地でのスケッチなどを原資料としながら、図案家による絵画風に仕上がっている。使われるモチーフも、景観のみならず公園内の民俗芸能や特産品などが景観内に配置され、国立公園切手とは趣を異にしている。これら国立・国定公園切手は発行からすでに40年を経過しているものもあり、簡便に当時の景観を確認する上で貴重なものとなっている。

一方、1951（昭和26）年、毎日新聞社と郵政省は国内の観光事業の活性化のために優良な観光地選定を目途にした「観光地百選」コンテストを郵便はがきによる一般投票で実施した。各地の観光協会や地元自治体が活発な投票呼びかけを行った結果、膨大な郵便はがきの利用を得た。

表 2　観光地百選シリーズ切手

区　分	観光地名	採りあげられた景観
山　岳	蔵王	ザンゲ下の樹氷　地蔵岳中腹の樹氷
平　原	日本平	茶摘み　富士山の遠望
温　泉	箱根	大涌谷　芦ノ湖
湖　沼	赤目四八滝	荷担の滝　千手の滝
海　岸	歌和浦友が島	観海閣　沖の島野奈浦
宇治川	河川	宇治川上流　治宇橋
都　邑	長崎	大浦天主堂　宋福寺竜宮門
湖　沼	菅沼・丸沼	丸沼　菅沼
渓　谷	昇仙峡	覚円峰　長とろ橋
建造物	錦帯橋	広重の版画　錦帯橋

資料）表 1 と同じ。

これに答える形で郵政省は、グラビア印刷による観光地百選切手の発行を企画した。観光地を山岳（蔵王）、平原（日本平）、温泉（箱根）、瀑布（赤目四十八滝）、海岸（和歌浦友が島）、河川（宇治川）、都邑（長崎）、湖沼（菅沼・丸沼）、渓谷（昇仙峡）、建造物（錦帯橋）に分け、その各部門の最多得票観光地を国内封書料金と、海外郵便用料金の 2 種類セットで発行した（表 2）。投票結果優先であったため、一般の印象からは必ずしも知られていなかった観光地が選定されるということもあったが、それまであまり知られていなかった観光地の海外への紹介という点では画期的であった。そのため、従来の景観写真にありがちな遠景中心から、より具体的な観光資源の景観が選ばれ、景観資料としての価値を高めている。近年、郵政業務の分権化で、各地の郵政局単位で発行が継続されている「ふるさと切手」にも現在の景観が記録されているが、簡便であるが時代的には新しく、デジタルカメラや VTR での記録が可能であり、その有用性はまだ小さい。従って、今回の検討の対象とはしない。琉球郵便では、1952（昭和 27）年の文化財シリーズ、文化財保護育成週間にちなむ切手のうち 1963（昭和 38）年の中城城跡、翌年の

宮良殿内など、1971（昭和46）年からの政府公園、海洋シリーズ切手などがあるが、文化財シリーズを除けば、図案家の絵画作品である。しかし、限界はあるにしろ復帰前の景観を検討するには貴重なものである。

2. 韓国の景観切手

韓国では、1964年に第一次観光シリーズ、1972年に国立公園シリーズ、1973年第二次観光シリーズ、1975年から1981年までの世界観光の日シリーズとして景観を主題とした切手を発行した（表3-6）[10) 11)]。その後、2000年以降、世界遺産シリーズ、わが故郷切手など多くの景観を主題とした切手の発行をみているが、日本のふるさと切手と同じ理由で今回の検討対象とはしない。第一次観光切手は印刷形式が平版2色であるが、細密な線で景観を描いており写実性が高い。景観切手としては秀逸の部類に入る。国立公園シリーズは写真を原資料に構成されており、版式もグラビア多色印刷で写真の持つ写実性を損なっていない。第二次観光シリーズは、景観の構図は斬新で様々なアングルで景観をとらえている。惜しむらくは、図案家による絵画作品のため日本の国定公園切手と同じ欠点を持っているといわざるを得ない。世界観光の日シリーズは、景観写真を原資料に観光地だけでなく孤島など多様な地域の景観が描かれており、資料の乏しい地域の地理的情報を与えてくれる。小品ながら資料性の高い一品ものが多い。

全体として、日本と韓国における景観切手のもつ情報は、近似する部分が多く感じられる。景観へのまなざしが、ある種共通する価値観や感性のもとで形成されているものと理解することも可能であろう。この意味で、一般化にはヨーロッパやアフリカ等の景観切手との異同性の検討が必要となってこよう。また、時間的な変化による景観比較の必要性も重要な課題であるといえる。

表3　韓国第一次観光シリーズ
(1964)

額　面	観光地名
1 w	秘苑
2 w	華虹門
3 w	義湘台
4 w	俗離山
5 w	白馬江
6 w	雁鴨池
7 w	矗石楼
8 w	広寒楼
9 w	華厳寺
10 w	天帝淵瀑布

注）W はウォン。
資料）2006 KPC-KOREAN POSTAGE STAMP CATALOGUE, JPS 外国切手カタログ韓国切手 2005-06。

表4　国立公園シリーズ（1972）

額　面	公園名・観光地
10 w	漢拏山国立公園・白鹿潭
10 w	閑麗海上国立公園・海金剛
10 w	慶州国立公園・仏国寺
10 w	俗離山国立公園・法住寺
10 w	内蔵山国立公園・内蔵寺
10 w	雪嶽山国立公園・雪嶽山馬登嶺

資料）表3と同じ。

表5　第二次観光シリーズ
(1973)

額　面	観光地名
10 w	慶福宮博物館
10 w	雪嶽山・継祖庵
10 w	八尾島
10 w	丹陽舎人岩
10 w	顕忠祠
10 w	蔚珍聖留窟
10 w	南海大橋
10 w	紅島
10 w	鎮安馬耳山
10 w	済州島・果樹園

資料）表3と同じ。

表6　世界観光の日シリーズ
(1975-81)

額　面	観光地名
20 w	寧越高氏窟
20 w	雪嶽山
20 w	摩尼山墮星壇
20 w	通度寺一柱門
20 w	ウルルン島
20 w	海雲台
20 w	慶会楼
20 w	白島
20 w	馬耳山
20 w	竜頭岩
30 w	白馬江
30 w	島潭三峰
40 w	ウルルン島
40 w	南山・ソウルタワー

資料）表4と同じ。

V　結語

本稿では景観分析のための非文字資料としての郵便切手、とりわけ景観を描いた公園、観光地切手の概要とその有効性について検討した。その結果、以下の点が指摘できる。①郵便切手は発行主体の時代的戦略によってそのモチーフが選択され、種々デフォルメされる場合がある。このことは景観を描くアイテムも同様であるが、その情報性に信憑性がより期待される地理的情報が主題となっていることで景観分析の基礎資料として有効である。②日本と韓国の事例で示されているように、景観へのまなざしについて、地域的な感性が共有されている場合が感じられる。したがって、人文主義的な地理学における景観分析の手法は一定の限界を越えて有用である。③以上のことで、渋沢フイルムと現在の景観の間隙を埋める上で郵便資料は有効的であるといえる。この点、官製とはいえ郵便資料の景観分析に供する可能性は大きいと考えられる。ただ、いわずもがなであるが、郵便切手として発行されていない景観の場合は当然のことながら利用できない。ただ、世界の切手発行国・地域は現在でも 200 を越えており、近代郵便制度が継続する限りは今後とも旺盛な切手発行活動が行われるであろうから、切手現物の収集・保存だけでなく電子媒体での記録としても完備しておく必要があると考えられる。前述のとおり、各国郵政は郵政資料の収集・保存に積極的であり、わが国でも郵政官庁の他、郵政省管轄のテーパーク（旧逓信総合博物館)、民間の「切手の博物館」などがナショナルセンターとしての役割を果たしつつある。また、各地の郷土資料館でも郵便史料の活用が図られつつある。ただ、現在のところ史料として文字史料中心の収集・保存・展示が中心である。近代郵便の歴史がまだ百数十年で郵便切手や逓送経路図など非

文字資料が比較的多く残っている現在、散逸する前にこの分野の現況調査、保存・展示計画などの企画が必要な時機が到来しているといえよう。

文献・注記

1) 八久保厚志（2003）景色（景観）が変わるということ　神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議　『非文字資料研究』No. 2 20-21　2003. 12。

2) 八久保厚志・須山聡（2004）「澁澤フィルムの国像解析とその応用」『年報人類文化研究のための非文字資料研究の体系化』1　109。発行機関は1）と同じ。

3) 浜田弘明（2005）「澁澤フィルムの景観分析とその課題」『年報人類文化研究のための非文字資料研究の体系化』2。発行機関は1）と同じ。

4) 江波戸昭（1987）*Ilustlated Handobook Musical Instrument stamp of the World*（「世界楽器切手総図鑑」（財）日本郵趣趣協会　1987）。

〃　（1996）世界切手地図　日本郵趣出版。その他多くの著作がある。

5) 斉藤　毅（1997）世界・切手国めぐり　日本郵趣出版。その他多くの著作がある。

6) オットー・ホルヌンク（1970）*Illusrated Encycolpedia of Stamp Collecting* Artia Prague Czechoslovakia.（魚木五夫訳「図解切手収集百科事典」日本郵趣協会出版局　1973）。近代郵便制度の創業から現代の郵趣事情について参照した。

7) H. A. Ramsden（1910）*Numismatists and Philatelist Journal of Japan.* Jun Kobayakawa Co,（小早川商店発行「大日本古銭古郵券雑誌」）大正2年1月。明治～大正の日本の郵趣事情について参照した。

8) Scott Publishing Co. *Standard Postage Stamp Catalogue.* 各年版。

9) SCHWANBERGER VERLAG GMBH *MICHEL—Katalog.* 各年版。

10) KOREAN PHILATELIC COMPANY LTD *KPC—KOREAN POSTAGE STAMP CATALOGUE.* KPC. 各年版。

11) （財）日本郵趣協会（2005）「JPS外国切手カタログ韓国切手2005-06」郵趣サービス社。